

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	田沢湖病院 施設管理業務				
担当課係名	総務管理 課	- 係	作成者	佐々木 純悦	
総合計画での位置づけ	施策の大綱	すべての生命を慈しむ健康福祉のまち			総合計画のページ
	基本計画	地域医療、救急医療体制の整備			
	主要施策	地域医療連携の強化			49
予算費目	病院事業 会計	款	項	目	
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続
性質区分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☒ 内部管理				
根拠法令等	医療法				
事務区分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運営方法	☐ 直営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	住民の生活に不可欠の医療サービスを提供
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	合理的かつ効率的な運営によって経済性を発揮し、最小の経費で最良のサービスを提供
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	合理化、効率化による経費の節減は、サービスの向上ひいては利用者たる住民の福祉の増進に寄与

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	施設維持経費の削減 電気使用量 (目標値：17年度比15%減)	目標	k W	967,434	967,434	967,434	
			実績	k W	1,066,014	1,010,652	915,244	
			達成度	%	110.2%	104.5%	94.6%	
	成果指標	施設維持経費の削減 電気料金 (目標値：17年度比15%減)	目標	円	14,743,850	14,743,850	14,743,850	
			実績	円	16,724,039	15,738,479	15,864,753	
			達成度	%	113.4%	106.7%	107.6%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				33,367	32,908	31,664	
	人 件 費 (B)		—		7,853	8,071	7,925	
	職 員 数		—		1.00	1.00	1.00	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				41,220	40,979	39,589	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				41,220	40,979	39,589
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		39	41	43
市民1人当たりのコスト(円)		—		1,293	1,304	1,275		

【事務事業の今までの成果】

電気使用量は17年度の1,138,158 k Wに対し915,244 k Wと19.5%の削減となった。
電気料金は17年度の17,345,707円に対し15,864,753円と8.5%の削減となっている。
電気料金については料金改定が影響し当初の目標に至っていない。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	医療費抑制、医師不足、看護師不足、これらに伴う地域医療の崩壊
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	救急車での搬送を可能とする救急医療体制の復活と病院機能の存続

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	病院施設管理業務においては各種機器のメンテナンスは民間を活用している。 施設管理について民間委託できるものがあると考えられる。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

病院施設管理業務全体を民間委託する方法や一部業務について民間委託の可能性を検討する。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	契約更新時の委託業務内容精査や新規業務委託の検討等、より効率的な施設管理を目指しつつ引き続き推進すべきと考えます。

一次評価診断図

